

作成日 2009年 1月 23日

改訂日 2014年 4月 17日

## 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品名 Mドライヤー  
 会社名 都インキ株式会社  
 住所 大阪府大阪市鶴見区放出東 1-7-13  
 担当部門 技術課  
 担当者 中田 敦嗣  
 電話番号 06-6961-0101  
 FAX 番号 06-6961-0303  
 緊急連絡先 同上  
 整理番号 Z-106-02

## 2. 危険有害性の要約

## GHS 分類：

物理化学的危険性：  
 火薬類 区分外  
 可燃性／引火性エアゾール 区分外  
 可燃性固体 区分外  
 自己反応性化学品 区分外  
 自然発火性化学品 区分外  
 自己発熱性化学品 区分外  
 水反応可燃性化学品 区分外  
 酸化性固体 区分外  
 有機過酸化物 区分外  
 健康に対する有害性  
 急性毒性（吸入：粉塵、ミスト） 区分 4  
 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 区分 1  
 特定標的臓器／全身毒性（単回暴露） 区分 1（呼吸器系）  
 区分 2（肺）  
 特定標的臓器／全身毒性（反復暴露） 区分 1（肺）  
 環境に対する有害性  
 上記で記載がない危険有害性は分類対象外か分類できない

## GHS ラベル要素

## 絵表示



注意喚起語 危険  
 危険有害性情報 吸入すると有害  
 重篤な目の損傷  
 遺伝性疾患のおそれの疑い  
 臓器（呼吸器系の障害）の障害  
 臓器（肺）の障害のおそれ  
 長期にわたる、または、反復暴露による臓器（肺、皮膚）の障害

## 注意書き

## 安全対策

粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。  
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
 保護手袋／保護眼鏡／保護面／保護衣を着用すること。  
 使用前に取扱説明書を入手すること。  
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手を良く洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

#### 応急措置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを使用している場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。

暴露した場合：医師に連絡すること。特別処置が緊急に必要である。

#### 保管

施錠して保管すること。

#### 廃棄

内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

### 3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

化学名	含有量 (%)	化学式	官報公示No. (化審法)	CAS No.
水酸化カルシウム*	2%以下	Ca(OH) <sub>2</sub>	1-181	1305-62-0

\*：労働安全衛生法通知対象物質

化学物質排出把握管理促進法：非該当

毒劇法の該否：非該当

### 4.応急措置

吸入した場合：新鮮な空気の場合に移動させ安静にし、医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合：履物、汚染された衣類を直ちに脱ぐ。多量の水および石鹼で洗い流す。炎症を生じた時は医師の手当てを受ける。

目に入った場合：清浄な水で最低 15 分以上洗眼する。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずすこと。その後も洗眼を続け、最低 15 分間洗眼した後、眼科医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄した後、医師の診断を受ける。

最も重要な兆候および症状：情報なし

応急処置をする者の保護具：適切な保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項：情報なし

### 5.火災時の措置

#### 消火剤

粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火剤、二酸化炭素、砂、霧状水

使ってはならない消火剤

棒状の水

特有の危険有害性

火災の状況により他の有害物質発生可能性がある。

過酸化物の分解により発生する酸素ガスが燃焼を助長する。

特定の消火方法

火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。

火のための放水などにより、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。

火災発生場所の周辺は関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行なう者の保護

消火活動は風上から行ない、必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は不浸透性の保護具および手袋を着用する。

消火活動を行なうものは空気呼吸器などの保護具を着用し、酸素欠乏および有害ガスから身を守ること。

### 6.漏出時の措置

人体に対する注意事項

漏出した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。

作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫などが皮膚に付着したり、ガス、蒸気、ミストを吸入したりしないようにする。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

## 環境に対する注意事項

漏出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

汚染された排水が適切に処理されずに環境に排出しないように注意する。

## 封じ込めおよび浄化の方法・機材（回収・中和など）

全ての着火源を取り除く。

少量の場合は、布などを用いて回収する。

多量の場合は、流出、拡大防止を行なった後に、柄杓などで回収する。

## 二次災害の防止

漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

## 7.取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

## 技術的対策：

労働安全衛生法、消防法などの関連法規に準拠して作業する。

暴露の危険性が生じる場合には保護具を着用する。

喫煙、裸火、熱または発火源を避ける。

皮膚につけたり、蒸気やミストを吸入したりしないように適切な保護具を着用する。蒸気やミストを吸入する可能性のある場合は、呼吸器具などの保護具を着用し、通気の良い場所で作業すること。

## 局所排気・全体換気：

室内で取り扱う場合は十分な換気を行なう。

## 注意事項：

使用後は容器を密栓する。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの粗暴な扱いをしない。

取扱い後は、手、顔などをよく洗い、うがいをする。

## 安全取扱い注意事項（接触回避など）：

強アルカリ、強酸、水、還元性物質などに接触させない。

## 保管

## 適切な保管場所：

容器を密栓して換気の良いところで保管すること。

熱／火花／裸火／高温のような着火源から遠ざけること。

## 避けるべき保管場所：

高温、多湿場所での保管は避ける。保管の場所では禁煙とする。

## 混触危険物質

ハロゲン類、強アルカリ、強酸、還元性物質に接触させない。

## 安全な容器包装材料：

湿気を通さず、密閉可能で衝撃吸収性を備えた容器を使用して保管する。

## 8.曝露防止及び保護措置

## 許容濃度：

化学名	管理濃度	ACGIH (TWA)	日本産業衛生学会 (TWA)
水酸化カルシウム	—	2.0mg/m <sup>3</sup>	—

## 設備対策：

使用材料の中に 8 時間加重平均 (TWA) で 10mg/m<sup>3</sup> のオイルミストと示唆される植物油を使用している蒸気およびミストが発生する場合は、局所排気装置を設ける。取扱い場所近辺に洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。

## 保護具

## 呼吸器の保護具：

呼吸用の保護具を着用すること。

## 手の保護具：

保護手袋

## 目の保護具：

保護眼鏡／保護面

## 皮膚および身体の保護具：

保護衣

衛生対策：

作業中は飲食、喫煙をしない。

9.物理的及び化学的性質

形状	: ペースト状
色	: 黄白色
臭い	: わずかに臭気あり
pH	: —
融点／凝固点	: —
沸点	: —
引火点	: >300℃
自然発火温度	: —
燃焼性（固体、ガス）	: —
燃焼又は爆発範囲の上限／下限	: —
蒸気圧	: —
蒸気密度	: —
比重（相対密度）	: 約 0.9
溶解度	: —
n-オクタノール／水分配係数	: —
分解温度	: —

10.安定性及び反応性

安定性：

60℃以上で過酸化物が分解し、酸素が発生する。

水との接触により過酸化物が分解し、酸素が発生する。

空気中の水分により過酸化物が徐々に分解し、酸素を発生して失活する。

危険有害反応性：

還元剤、水、酸、アルカリと反応する。

避けるべき条件：

日光、熱、裸火、高温、多湿、スパーク、静電気、その他発火源、混触禁止物質との接触。

混触危険物質：

強酸、強アルカリ、酸化剤

ハロゲン類

還元剤

危険有害な分解生成物

煙、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、カルシウム酸化物など。

11.有害性情報

急性毒性(経口) mg/kg	急性毒性(経皮) mg/kg	急性毒性(吸入： 気体)mg/kg	急性毒性 (吸入：蒸気)	急性毒性(吸入： 粉塵、ミスト)	皮膚腐食性・ 刺激性	目に対する重篤 な損傷・眼刺激性
分類できない	分類できない	分類対象外	分類できない	区分4	分類できない	区分1

呼吸器感作性 皮膚感作性	生殖細胞変 異原性	発がん性	生殖毒性	特定標的臓器・ 全身毒性 (単回暴露)	特定標的臓器・ 全身毒性 (反復暴露)	吸引性呼吸器 有害性
分類できない	区分2	分類できない	分類できない	区分1	区分1	分類できない

12.環境影響情報

水性環境有害性（急性）	水性環境有害性（慢性）
分類できない	分類できない

### 1 3.廃棄上の注意

#### 残余廃棄物：

内容物／容器を国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

取扱いおよび保管上の注意の項の記載によるほか、可燃性物質に関する一般的な注意による。

廃棄物処理業者に委託する場合は、可燃性物質であることを明記する。

#### 汚染容器、包装：

内容物／容器を国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

### 1 4.輸送上の注意

#### 国際規制

国連分類：国連勧告の定義上の危険物には該当しない。

#### 国内規制

労働安全衛生法、消防法その他の法令に従う。

#### 輸送の特別の安全対策および条件：

転倒、落下などにより容器が破損しないように積載し、荷崩れ防止などの処置を確実にこなう。

### 1 5.適用法令

#### 国内法令：

労働安全衛生法 通知対象物質 水酸化カルシウムを含む。

消防法：指定可燃物 可燃性固体類に該当する。

海洋汚染防止法 油分排出規制、Y類物質を含む。

### 1 6.その他の情報

#### 問合せ先

担当部門 当社 技術課

電話番号 06-6961-0101

FAX 番号 06-6961-0303

メールアドレス [gijutu\\_nakata@miyakoink.co.jp](mailto:gijutu_nakata@miyakoink.co.jp)

---

\* 「安全データシート」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や、新しい知見により改訂されることがあります。  
本製品を取扱う場合は、記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じて下さい。  
本データシートは、安全や品質の保証書ではありません。